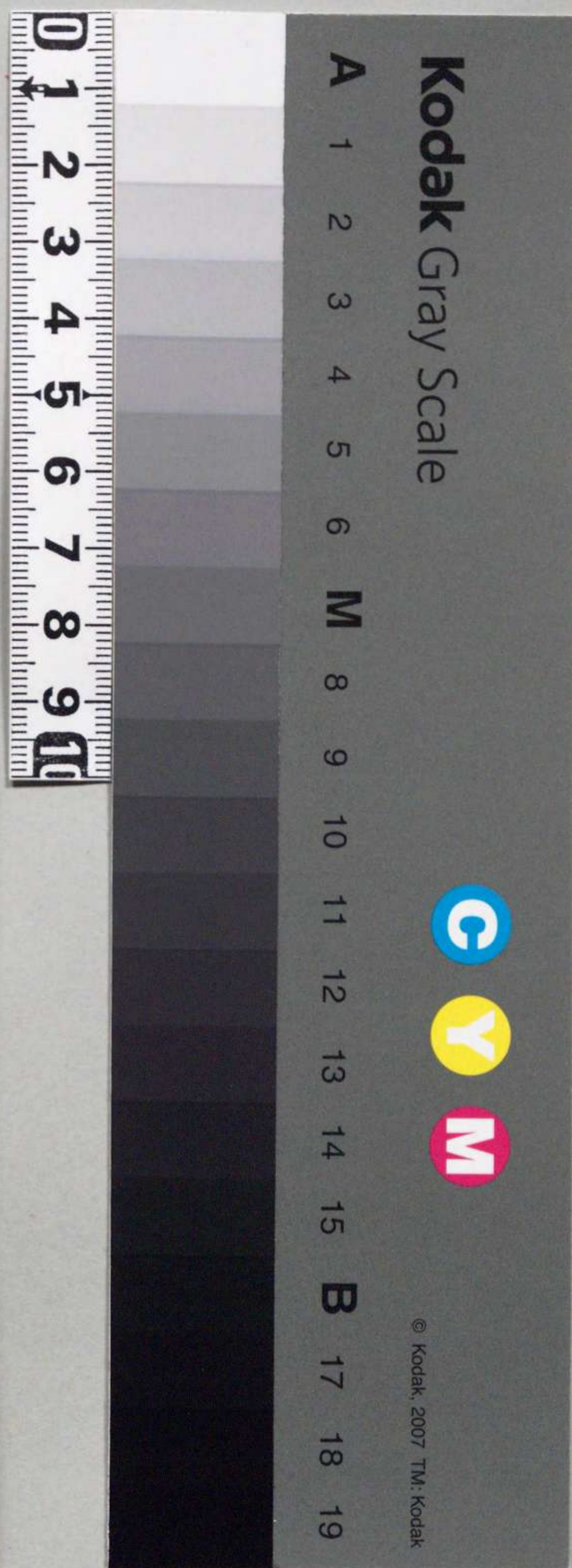


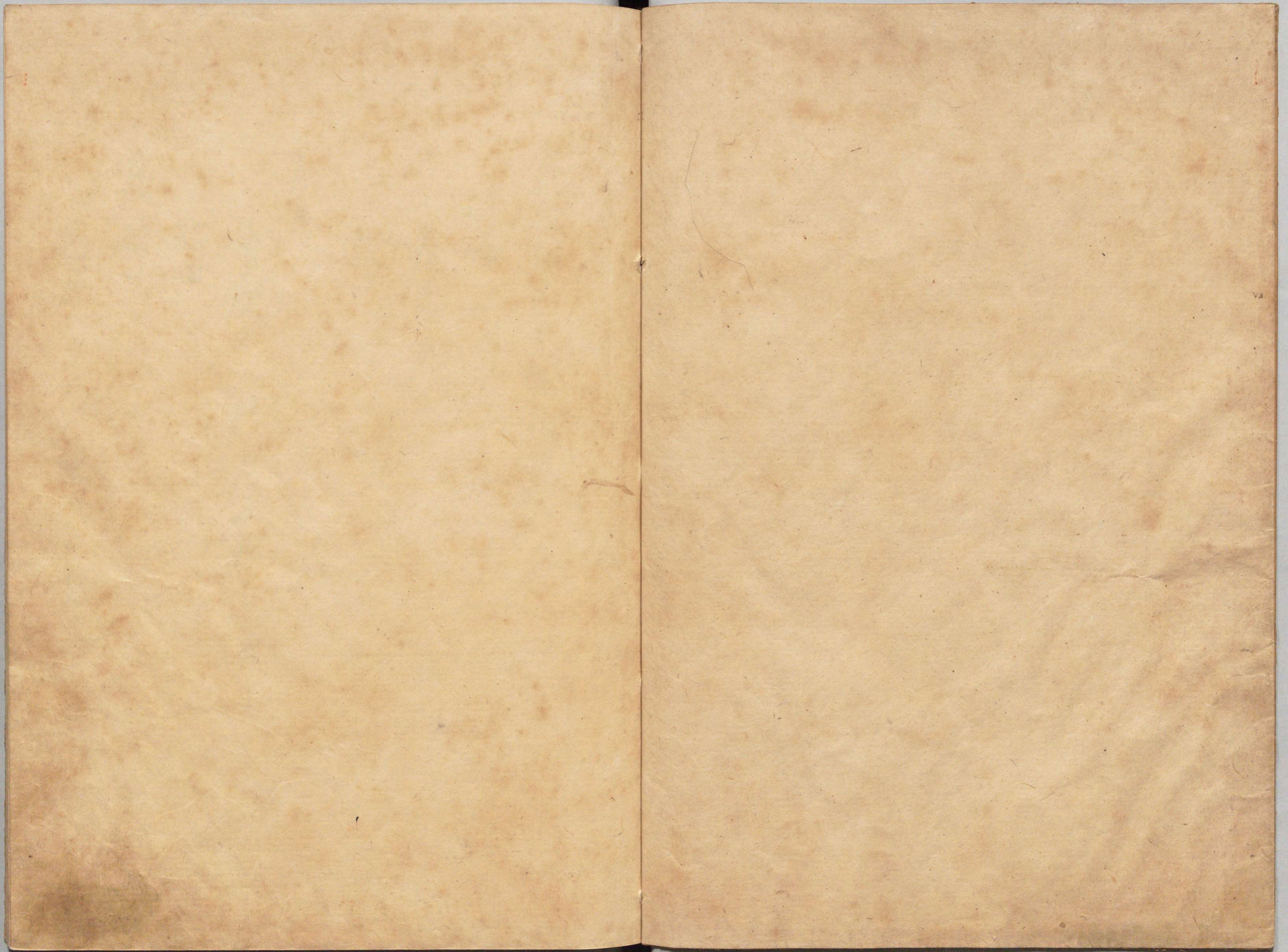
83

寛永諸家譜

清和源氏庚八冊之内
義光流之内逸見流

内閣文庫	
番號	和 20199
冊數	186 (38)
函號	特 76 1





逸見

溝口

飯田

青沼

寛永諸家系圖傳

清和源氏

庚二

義光流

逸見

義光

常陸公

新経之郎と号す

義清

刑部三郎

初之逸見と号す

浅草文庫

甲列 こうりつ 書 しよ 湯 たう の 配流 はいりゆう せしむ 四十九歳 しじゅうくにんさい
み み 之 の 判 はん 發 はつ

清光 しよこう

逸見冠者 いつみのかむらじ

光長 こうちやう

逸見右衛門 いつみゑもん

上総 こうそう

基義 きぎ

右衛門 ゑもん

惟義 ゐぎ

右衛門 ゑもん

法名 ほうな 為 な 忠 ただ

義重 ぎぢゆう

又 また 右衛門 ゑもん

法名 ほうな 白蓮 はくれん

重氏 ちがし

又三郎 またさんらう

あつた 逸見大業 あつた と号す あつた 法名

重正 ちがまさ

源五郎 又右郎 甲列逸見 あつた

義高 よしかた

右右衛門尉

義系 よしかへ

又右郎

義房 よしかふ

源五郎

義仲 よしかた

源右郎

義治 よしかた

源三郎

義通 よしみ

源左衛門

義忠 よしたか

源右衛門

上総守

生五甲斐

法名宗順

後のちに武列ぶれつ秩父郡ちちぶのこほりに後のちに小糸安房守おぐさやすらふのりに属まゝす

義久 よひひこ

四良右衛門

生五武藏秩父

天文十三年てんぶんじゅうさんねん小糸安房守おぐさやすらふのりに属まゝす
武列ぶれつ廣木ひろきに就つき討死うちにかへ三十六歳
法名ほふな道隆みちたか

義次 よしつぐ

小笠原左衛門尉おがさわらざえもんゑい 生五河内おぐさわかゐ

小糸安房守 膳下ノ属寸

文禄元年 肥列名護屋におおき

大権現 義次ノ子 義助ノ命 申されし

義次を汝が飲肉におき 船夕孝川

いす 海一との上さなり

同二年 九月 駿府よりしる時小

大権現 大久保石見守ノ 修之 義次

とお別 中糸ノ居候也し じ屋一

とたり ありととあり 義次をいひ

なり寸して 同月 十三日 病死 四十八

法名 傳永

義助

跡者 右 義助 生 玉 氏 義 針 形

大権現 一めし じさる

文禄 元年 三月 朝鮮 王 へ 教 向 の 別

大権現 沖 傳 じ 肥 列 名 護 屋 じ

いす 海

寛永五年 園ヶ原合戦の時

大権現の供をす

元和元年五月大坂陣の時供
を勅じ

寛永元年三月廿七日病死時
五十三歳 法名道福

忠助

播磨 河津左衛門尉 生玉河

寛永九年十月十五日勅

白河院教を有す

同十八年 伏見北城法着を勅じ

元和元年大坂陣の時 紀伊

内廷 御中 一 軍事

法と

義記

小田郡 市ノ座 生玉相摸波多野

寛永十五年九月十日勅

右法院教小端ありあり

大坂西度の沖陣あり

右法院教沖陣あり軍事を勅あり

義元よしもと

八十郎 生武藏江戸むさし

寛永十三年十月廿九日勅

右軍事を有あり

義重よししげ

勘右衛門 生五河家

寛永十二年六月十九日勅

右法院教を存端あり寸

同十九年大坂沖陣あり寸

寛永十六年病歿五十一歳 法名あり

傳霜あり

義持よしもち

左源太ひだり

右五河

寛永十七年五月廿一日

台法院教一洗之

寛永元年父義助の遠政をつぐ

義貴よしかた

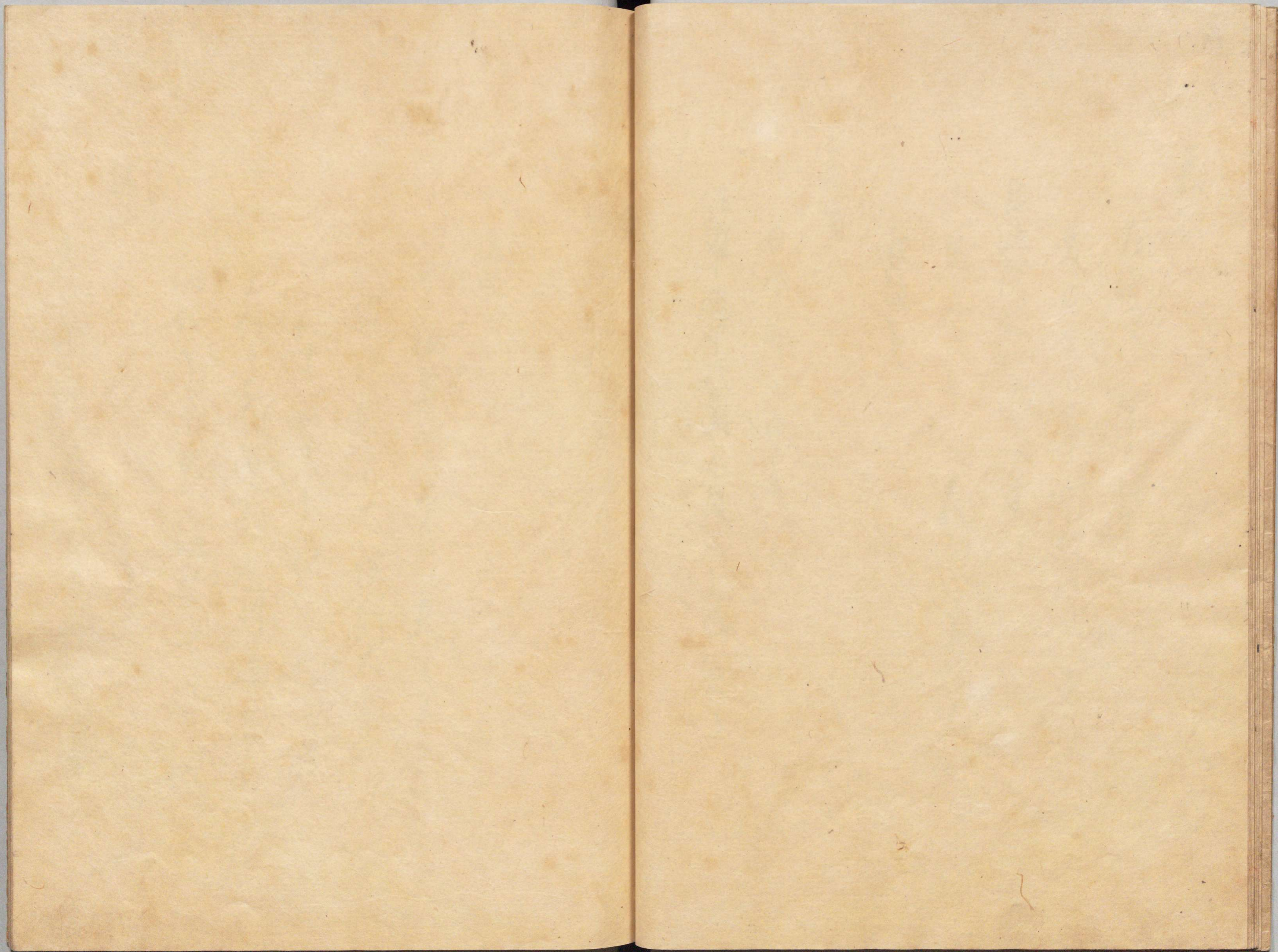
右左衛門

右五河

寛永十六年三月廿七日

お軍家と為瑞一父の遠政をつぐ

家の紋



溝口 みづぐち

先祖 せんぞ 聖見 せいけん 又 また 志郎 しろう 義重 ぎじゆう 義久 ぎきう 礼 れい
の軍功 ぐんこう に よ りて 浩列 こうりつ 大業 おおくま の御 ご
と な まりて な りけり 代 たひ る 英法 えいぽう
と な りて な りけり 代 たひ る 英法 えいぽう
に よ りて な りけり 代 たひ る 英法 えいぽう
に よ りて な りけり 代 たひ る 英法 えいぽう

● 猪政 しうせい

彦右衛門尉 尾列 溝口の御と領寸

天正元年死去 法名津采

秀勝 ひでかつ

童名竹 伯耆守 生五尾張

幼少の時丹羽とて長濱の尉長秀よ
属す

天正九年織田信長一ツ出され
別所とて逸見駿河守が御職となま
り高濱の城に居候寸信長の御采

平いまたいささなり

同十一年冬長秀吉某回少合戦乃
時秀勝並列り然あの際賀しり

おしじうとく秀吉しりあるしひと忠告
をいすうの功より賀列大給す

の城なりしよは浪取能美郡の内
ては百回ふんれ給地をたまりの秀吉

の沙集平いすに不持寸

同十四年秀吉の伯少より後五信下

小叙こぎ——豊后よみの姓ななされ秀ひでの字なを
たまり

享和三年あろこのと賀別あん大勝寺か此城だを攻あめ

たの越後あ五新あ教田あの城あより一あ万

六あ万石あの加増あをたまり秀吉あの御命あ

うまひり

同五年あ上杉あ系孫あ孫友あをくつり

時

東照大権現あの命あと受けたまりて先あ

陣あをうあ今津あ境あ津川あ口あまあくあ海

よりあびあふあのありあ系孫あ越後あのあ郡あ民あ

いあひあのあをあ一あ揆あをあおあしあひありあの時

秀吉あ河内あの大あ河あをあよりあ命あ戦あとい

くあ賊あ堂あをあうちあちあすあうあめあちあ城あ

迹あ等あ堀あ監あ物あがあ指あ珠あ三あ糸あをあかあくあむあり

りあ秀吉あきあひあてあ後あ浩あとあてあ攻あ地あ

おありあじあくあれあ不あ一あ揆あ等あああれあをあまありあて

途あよりあのあ一あ揆あのあ在あ家あ屋あきあくあくあ

ひく^{ふだ}陣^{のらみ}の^み後^ご太^たの^お勢^せじ^しま^まし^しく^くし^しん^んへ
源^{げん}を^をと^とり^りす

同十五年^{どうじゅうごねん}六十三歳^{ろくじゅうさんさい}に^にく^く病^{びょう}死^し 法^{はふ}名^{めい}
浄^{じやう}見^{けん}

宣^{のり}播^は

父^{ちち}昭^{あき}正^{のり} 伯^{ちち}耆^{せき}忠^{のり} 生^{なま}玉^{たま}美^み狭^さ

母^{はは}長^{なが}井^い源^{げん}七^{しち}む^むと^とあ

同十二年^{どうじゅうにねん}秀^{ひで}吉^{よしか}の^の命^{いのち}に^にり^り源^{げん}五^ご結^{むす}下^{した}

小^こ叙^{ぎよ}一^{いつ}秀^{ひで}の^の字^なと^とな^なり^り秀^{ひで}信^{のぶ}と^と号^{なづ}す

後^{のち}一^{いつ}宣^{のり}播^はと^とい^いふ

同五年^{どうごねん}余^{あま}津^つ津^つ陣^{のらみ}の^の別^{わか}又^{また}秀^{ひで}播^はと^と

一^{いつ}所^{ところ}一^{いつ}揆^{けん}と^と返^{かへ}洛^{らく}す

又^{また}秀^{ひで}播^は存^{ぞん}生^{せい}の^の時^{とき}名^な叙^{ぎよ}七^{しち}子^こ石^{いし}と^と宣^{のり}播^は

よ^よし^しら^らり^り五^ご子^こ石^{いし}と^と二^に男^{おとこ}秀^{ひで}播^はに^に行^いく

す^す秀^{ひで}播^は卒^{すつ}一^{いつ}て^ての^のら^ら秀^{ひで}播^はの^のい^いり^り

秀^{ひで}播^はより^{より}う^うら^らる^る所^{ところ}の^の地^ち皆^{みな}以^もて^て宣^{のり}播^は

勝^{かつ}よ^よく^くして^{して}秀^{ひで}播^はの^の宣^{のり}播^はの^のゆ^ゆつ^つり^りを^をす^す

しうげんこふを給ぐいり家父の家
督とけくえいはけいふをまはるる
善給は在りし戸うらなこのる不似す
こしきまへに清なるはとあがり
父の譲のうふ宣給加増す魚このよ
しとひられとも善給辭してうけす
こうきよあり

右法院教(まよ)しけいハ名中P不い
つても理(ま)りまると清感りえ堂

給ぐまとのけいふは假(ま)りまはるる
石の内五万石宣給し下され一百万石
石善給有給す

同十九年一上坂沙陣の時 勅命よ
より江戸の清留(あ)るまはるる
元和えま大坂専乱の時越後が忠
輝(ま)りまはるるして清陣をつとむ

寛永五年一歳四十七年法名善莫

善勝

孫右衛門尉

伴豆吉

生玉賀列

大徳寺

母ハ豆吉ノおな

まも六才十八歳にして

大徳院を有しあり

白法院教小法師なり

同十年

大徳院の納命より後五帖下に叙し

伴豆吉に任す

同十四年

白法院教より上野五郎左衛門尉の内にて

二子石の地をたす

同十五年父秀吉卒して後六百二

千石の内一百二十石

白法院教より有給しう 都合一百石

石なり

同十九年大坂陣の時出陣大坂頭

利緒よりみし 供を以て大坂本

津口の舟とありし平なるこのしほ

釣命とうけたまはり侍表に在番す

翌年津陣の時も侍をす

寛永四年八月より翌年八月ま

て大坂の御番を勤じ

同十年

將軍家の釣命とありし五歳内をこひま

田五紀伴侍勢伴質の五よりをこ

とむ

同十一年五十一歳ありし卒す 法名
乃徹

女子

中院大納言通村の室通純の母

政務

全十郎 生玉武苑

母はあ回封馬と云侍女

元和八年

台津院教とあり くれ あり き あり

將軍家一洗之たて あり あり あり あり あり あり

寛永十一年

將軍家の命より あり あり あり あり あり あり

田子石此内 あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり

同十九年 鈞命より あり あり あり あり あり あり

善と洗と

改良 せいりょう

金助 母ハ溝口伯耆守室孫女 あり あり あり あり あり あり

助務 すけつむ

控佐 生玉武藏 あり あり あり あり あり あり

母ハ政務よ あり あり あり あり あり あり

寛永四年

台津院教一清月見時よ十七歳

同十一年より

將軍家一統之あり

同年父善孫ちひらがきつ初の由よし之を承るの
地ちと相承す

善孫ちひら

九十郎 生國いは

母ちひら上しにおる

寛永十一年

將軍家一統目見時し十六歳

同年父善孫ちひらがきつ初の由よし之を承るの
地ちと相承す

之勝ちひら

八十郎 生國いは

母ちひら上しにおる

寛永十六年

將軍家一統目見時し十八歳

寛永

のり

出雲守

母ハ堀右衛門督兼政女

寛永十六年七月

台法院殿へ御目見翌年

大指環を賜へたり

寛永元年

將軍家の御命ふくは後立位下に叙

出雲守小任寸

同五年又宣旨御職と為給寸時

地の内より田北のうら出

五百名あり

たきふ

寛永

久三郎

母ハ森川出羽守重後女

寛永十七年八月

將軍家（沖目兄）

女子

母 稻葉良助の御一適女

宣秋

又十郎 母は上におか

元和八年十元業

台法院教（沖目兄翌年）

將軍家とあり

寛永五丁亥宣勝率一して後給也

のうらり六千石有給寸

系

官松 母は久保左衛門亮教隆女

系

新 母はよし

宣後

内記 母ハ上ヨリ

元和八年十一月某日

台法院教へ清目尼つね聖年

將軍家とあり

寛永五年父卒して後領地の因

五子石物領寸

系

長吉 母ハ井ノ深路与痛名女

長吉 母ハ上ヨリ

系

宣加

長京 母ハ上ヨリ

寛永五年十一月某日

台法院教へ清目尼のち

女子

將軍家一清人もの

同年父意播率して後領地の内

四千五百石を領す

母は上戸の

長谷川縫殿助妻

家紋 榎摺菱

● 有次

右馬允 ひまの ぎ 生五甲斐 い 飯田 い を能す
信虎 のぶとら 信玄 のぶのぶ 二代 にだい として して 病死 びやうし

飯田

逸見 えんみの 四郎 しろう 源貞長 げんぢやう 末葉 まつは 甲別 かべつ 飯田 い
と能 と 一 一 祿号 ろくごう とす

昌在 まさなり

じまのまけ

大正助

あち

生玉回あ

猪瀬上流ふ

えり

天正年中

大樽現甲列一沖教向の時昌在初々

あち

まさなりけり

おーまろうのち

台法院殿より流るるなり

え

交長十九多大坂沖陣の時病氣なり

あち

といとも沖陣仕陣屋におおく病死

あち

や

昌重 まさしげ

次郎右衛門

生玉武藏

あち

寛永元年

台法院殿へあし流るる

在久 あひひ

清右衛門

生玉甲斐

台漚院教

將軍家由二代（法久）
（孝方）

在勝 りり

三吏 生玉武翁

將軍家（法久）

家級割菱 りり

昌世 まこと

肥後守 ひごのり

生玉河守

法名来精 りょうしゅう

昌吉 まこと

逸見彌後守 たけみ やし

生玉甲列

武田信虎小次郎 たけだ のぶとら

喜派 きはい

信虎より武田の家紋割菱と世にまた
まの神と青沼と号す

昌平

助左衛尉 生玉河家 法名梅鉄
信玄孫頼と号す

昌奥

縫殿助 生玉河家

信玄孫頼と号す

天正十年

大権現甲別 沖入玉のと記石出さす

台法院教小法久也

元和八日三月病死 法名常盤

昌長

右近 生玉河家

天正十年

大権現といとあり

台徳院殿

將軍家といの法といの寺とい

正成まことなり

友右衛門とも

生玉武藏じゅうぎ

受書十一

台徳院殿

將軍家といの法といの寺とい

家紋このえん割菱わりひし

